

琉球大学学術リポジトリ

将来の食肉資源としてのカピパラ(Hydrochoerus hydrochaeris)における生産性について

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川島, 由次, 仲田, 正, 高橋, 宏 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016812

3. 将来の食肉資源としてのカピバラ (*Hydrochoerus hydrochoeris*) における生産性について

川島由次・仲田正・高橋宏 (琉大・農)

カピバラ (*Capybara*) は南米原産の世界最大のげっ歯類である。本種の特徴は早熟で繁殖力が強く、植物資源 (ホテイアオイ) の利用性が高く、肉は美味なのでタンパク質資源として有望視されている。国内では進化生物学研究所 (所長・近藤典生博士) において本種の飼育・繁殖の基礎研究が行なわれており、沖縄島での飼育実験も計画されている。今回は演者らの形態学的な成績とヒメネス (77) の生産性に関する成績を紹介する。カピバラは体長: 90~120 cm、体高: 45~60 cm、胸囲: 70~90 cm、体重: 45~60 kgで全身が黄褐色の粗毛で被われている。歯は草食に適応し消化管では盲腸の発達の良い点が特色である。乳頭の数はいくつかある。本種の実績をみると、繁殖力では妊娠期間: 120日、一胎の産子数: 473頭、年平均出産回数: 1.83産、母獣の平均体重: 45kg、初生子体重: 1.3kgである。この数値から「出産率」(1年間に母親の1kg当り何kgの子が生産されるかという値)は0.25で、ウシの0.04と比較すると6倍に相当する。産肉能力は1日増体量: 54g、殺体重: 30kg、枝肉率: 51%、と体月齢: 18カ月であり、「産肉効率」(年間の1頭当りの産肉量)は10.2となる。ウシでは36.2なのでカピバラの値は3分の1に相当するが、単位体重で比べるとウシよりもはるかに高い値となる。両者の生産率と産肉効率よりウシのと殺年齢である4.5カ年間の食肉生産量を比較すると、カピバラは303kg、ウシは163kgであり、さらに生時体重100kg当りの年間生産量に換算するとカピバラは421kg、ウシは44kgとなりその差は約10倍に達する。1ha当りの密度をウシ: 0.26、カピバラ: 0.80と推定すると1ha当りの年間食肉生産量はウシ: 14kg、カピバラ: 63kgとなる。カピバラはウシよりも省資源でしかも高い産肉能力を有する動物なのである。